

”今年1年いい年でした。ありがとうございました。” 2002.12.31(tue)

忙しさにかまけて元来の筆無精が出てしまったこの1年でしたが、またこの1年、拙い文章ながらも懲りずにくお付き合い下さいまして、本当にありがとうございました。凡人ながらも年を取りますと、様々な責任や立場が付いてくるもの。正直ホントすっかり忙しくなって来ましたが、それもまた楽しいもの。大変充実した1年でした。来年は私も年男。今年以上に充実した1年でありますように祈ります。皆さまもいいお年をお迎え下さいませ。

”不登校生のエゴグラムを考える。その3” 2002.12.18(sun)

再びご無沙汰しました。ホームページ書き換えのためのファイル転送ソフトにトラブルがありまして、暫く書き換えができず。そして、その修復ができたなら今度は、NPO静岡県教育フォーラムでの来春のオーストラリア合宿の募集記事が新聞発表され、大変多くの方々から申込頂き、その対応に数日追われておりました。大変失礼致しました。

早速もう一人の生徒Bさん(中3女子)についてお話致します。家族は祖父母に、40代のご両親、本人と双子の弟達です。ご両親は結婚しても暫くなかなか子どもが授からず、ようやく授かった彼女に続き、3年後なんと双子の弟達が誕生。弟達の世話に明け暮れるご両親を見ながら、「私はお姉ちゃんなんだ。しっかりしなくては。」と幼心に考えたのでしょうか？弟たちの世話は勿論、家のお手伝いもよくやる、本当にイイ子だったようですね。友達の中でも結構積極的で、自分の気持ちを遠慮なく、自然に出せる反面、小学生の頃の日々の彼女の話から意外に冷静に周りの人々の様子を見ていることにご両親も驚くことがあったようです。高いAとACの芽生えなんのでしょうか。ところが、幼稚園の頃はそうのように大変活発な女の子でしたが、成長するにつれ次第に外に遊びに行くことが少なくなり、どちらかと言うと家でテレビを見たり、本を読んだりする事が多くなり、周りからも「おとなしい子ですね。」なんて言われるようになったようですね。そして、小学6年生の1学期、ちょっとした友達とのトラブルから学校を休みがちになり、2学期に入ると友達からハブにされたり、持ち物にいたずらされたりしたようで、連続して学校を休むようになったとのこと。それでも、3つの小学校から通う中学校1年生になってからは新しい友達も出来、その子の援助もあって今までの友達とも仲直りし、学校には行けるようになりましたが、中学2年生の2学期、女の子達の普通のおしゃべりの中でふと言った言葉が一人の友達のひんしゅくを買い、思いも掛けない溝を産み、それを悩んでチックも出、いよいよ学校に行けなくなってしまったのです。この3年の8月、ご相談を受けましたものの、いよいよ中学校卒業を控え、正直ご両親の不安や焦りは大変なものではありますが、当フォーラムの大学生スタッフの友達の対応を続けつつ、忍の一字、じっと彼女の自主的な動きを待っております次第です。願わくば、この「豪州・ペンリス市 春ゆめの大自然交流合宿」に参加して貰いたい、そんな思いでおります。

”不登校生のエゴグラムを考える。その2” 2002.12.3(tue)

先日の2人のエゴグラムの分析（と言うと、ちょっと大袈裟ですが）はいかがでしたでしょうか？今日はその2人の生育歴や不登校に至った起因、継続因についてお話致します。と言いましても、今月5,6日が来年度の助成金の締め切り日のため、現在その書類書きに追われております。従いまして、毎度のことながら大変申し訳ありませんが、今日はその現在中2の男子生徒、A君についてお話致します。

（以下は「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。）

”不登校生のエゴグラムを考える。その1” 2002.11.28(thu)

交流分析では心理テストとして、人の5つの自我状態、即ち、CP：批判的な親の心—頑固親父、NP：保護的な親の心—世話好きおばさん、A：合理的な大人の心—コンピューター人間、FC：自由な子供の心—やんちゃ坊主、AC：順応した子供の心—いい子ぶりっ子に給付されると想定される心的エネルギーの量を、グラフに表現したエゴグラムを使います。私共NPO静岡県教育フォーラムでも、各人の対応にこのエゴグラムを活用しております。（時折、静岡オープンスクールでも生徒指導に活用致しますが。）

これまで私共で対応してきました児童・生徒の中で、この交流分析を採用してから取りました児童・生徒のエゴグラムを分析すると、確かにそれぞれの心的素因が見えてきます。先月のTA（交流分析の略）ネットワークの研修会（名古屋会場）で杉田峰康先生は、不登校はこうした素因に起因と継続因が相互に関係し合って起こるとお話されました。従いまして、私共はこの後述ベますエゴグラムを示す児童・生徒が皆不登校になると申し上げているのではありません。くれぐれも誤解なきようお願い致します。本日はある2人の生徒（例によってプライバシー保護のため趣旨に反しない範囲で事実を変えて述べさせていただきます）のエゴグラムを元に、不登校に至る心的素因を皆さんとご一緒に考えてみたいと思います。

2人のエゴグラムを琉球大学・新里教授のエゴグラム（ECL-R）を使って取り、同教授のエゴグラム採点表（0-100）で表すと、その生徒A君（中2男子）はCP-83, NP-100, A-60, FC-8, AC-100で、もう一人の生徒Bさん（中3女子）はCP-8, NP-55, A-98, FC-30, AC-90となります。いかがでしょうか？これは当フォーラムで現在対応し、あるいはこれまで対応してきた不登校生のエゴグラムに見られる代表的な値です。即ち、NP（又はA）とACの値が高く、CPとFCが低いN型・自己否定、他者肯定型で、特にACが高いのはほぼ共通しています。私達は、このACの高さを低いFCとを考え合わせ、自分を抑えて相手からよく思われるように行動すると解釈し、どちらかというとおせっかいな高いNPと相まって、まさしく「いい子」を演じ、劣等感・無力感を持ちやすく、本当の自分を出せないと考えます。というよりは、確立がしていないように思われます。やりたいこともやれず、言いたいことも言えない傾向があるため、ストレスが溜まりやすいのも、自主性・主体性の未発達ゆえであると考えます。同時に高いCPを示すA君は、攻撃感情を内に向け、「自分はみんなと違ってダメな人間なんだ」とか、自己嫌悪や自己処罰の形で処理していると考えます。あるいは、彼は不登校生が辿る不穩期の現れかもし

れません。また、Aが最も高いBさんの場合、物事を合理的に考え、あるいは、あれやこれやと考えすぎて人と接するがために友達ができにくく、あるいは、友達が離れていき、友達の誤解を招きやすいと考えます。

皆さまの見方もお聞き致したく、本日はこの辺で留めます。次回、それぞれの生育歴や起因、継続因を合わせて分析し、私達の現在の対応をお話しし、また皆さまのご意見をお聞き致したく思います。

”不登校生の対応・指導を共に考える。” 2002.11.26(tue)

もう7年の余になりますか、本格的な不登校生の対応を始めた頃に浜松の石川先生に紹介され、勉強してきました交流分析。勿論のこと、どんな勉強もそうですが、こと人の心を扱うだけに勉強すればするほど奥は深く、確かに難しくなってきました。しかし、このような私にも分かるほど、不思議な位にこの交流分析は分かりやすく、それ故に、この間私共の不登校生の対応に随分生かすことができました。

先日の藤枝・岡部地区養護教諭研修会では、現在当フォーラムで行っております、この交流分析を生かした対応・指導を紹介させて頂きました。相変わらず大人相手に話すのは苦手、時間配分もうまく行かず、最後は駆け足話になってしまったのにもかかわらず、その後数人の先生方からお電話やメールまで頂き、大変嬉しく思っております。

ご存じの通り、こうした不登校生の対応につきましては、これまで社会の大きな変革の過程の中で学校や病院、あるいは精神分析医や心理学者の間でも大きく揺れ動いてきたいきさつがあります。それだけに私共のこうした対応・指導もまだまだ勉強していかなければならないと思っており、これまで一般公募して年数回行ってきました心理カウンセリング研修とは別に、一人のスタッフの提案から一昨日の24日のスタッフ会議でも、この養護教諭研修会のために作りました私のレジメを元に勉強会を始めました次第です。

そこで、こうした不登校生の対応・指導につきましてもっと多くの意見を聞きながら、より適切な対応・指導を模索すべく、この日誌で私共の認識を含めて対応・指導のお話をさせて頂こうと思うに至りました。今日は時間の関係でその前書きに留めますが、よろしかったら暫くその話にお付き合い下さいませ。

”\ (^ ^) /藤枝・岡部地区養護教諭研修会の講義、やっと終わりました。ホッとしております。” 2002.11.21(thu)

大変ご無沙汰致しました。ようやく終わりました。塾屋をやって20年間、日頃から♪子供相手に、人の道、人生なんかを説く男♪になって授業するのは慣れておりますが、それこそ今回私の話を聞いて頂いた皆さんの方がご専門の心理カウンセリングの話をするのは、本音言って非常に緊張しました。

しかし、こうした機会もいいものですね。日頃は忙しさにかまけて、相談者の心理分析もそれなりにやってはいるものの、すこし荒くなっていることに気づき、大変感謝しております。

す。その意味で今回の研修会の講師をこの私に依頼して下さった幹事の先生には大変感謝しております。ありがとうございます。今回の話を本ホームページに掲載しようかと思いましたが、余りにも具体的な話であるため、やはり掲載は控えさせていただきます。でも、この間、下の14日の日誌に書きました通り、色んな事がありました。これからは少しずつそれについて書いていこうと思います。宜しくお願い致します。

”ただ今、(^ ^)ゞ21日の講義の原稿書き真っ最中！暫しお休みさせていただきますm(____)m” 2002.11.14(thu)

10日、静岡で行われた「不登校を考える討論会」行ってきました。ようやく2002年度心理カウンセリング研修の要項が完成。豪州・ペンリス市、夢の大自然体験合宿、やっとな進展の兆し。昨日、元中央防犯SC～藤枝ブルックス～アビスパ監督・菊川凱夫氏のアビスパ福岡退団のニュース。書きたいことはいろいろあれど、ごめんなさい、ちょっとお時間下さいませ。って言いながら、すぐ書き始めるかもしれませんが・・・あれっ！遂に本ホームページのご来訪者が一万人を越えてました！ありがとうございます～～～す！

”たて穴式住居、いよいよ完成！” 2002.11.7(thu)

科学技術が高度に発達した時代、しかもこんなに不景気な時に、ほんとバカなことをやっております。でも、結構楽しく作ってきました。青島小と青島北小とで張り合う子ども達を窘めたり、力がなく骨組みの麻縄縛りがなかなか出来ない子どもを励まして作業させたり、なんとか気力を持たせるために時々ネイチャーゲームを取り入れて遊んだり、先月は地元農家の方のご協力を得て山梨県上九一色村までトラックで茅刈りにと、延べ10日、お手伝いの中学生を入れて計12名の子ども達作り上げた傑作作品であります。最後の茅刈りと茅葺きは大学生のボランティアスタッフや保護者の方々に手伝って頂きましたが、高さ約2.5m、6畳程の広さの円錐形の立派なたて穴式住居です。本ホームページの「わんぱく自然の里」のページに写真(11月3日の夕方撮影のため、ちょっと暗くなってしまいました)を掲載してあります。11月5日付け静岡新聞朝刊第16面にカラー写真(11月4日朝お手伝い頂いたご父兄が撮影頂きました)入りで紹介されました。是非ご覧下さい。

まだ棟部分の屋根の茅葺きが出来ておりませんので、12月に完成になります。3日夜その中で過ごしましたが、結構暖かかったですよ。私も勿論のこと茅葺きの経験なぞ全くなく、本の簡単な図を記憶に茅を葺きましたことから、一様な厚さでなかなか葺けず所々すきま風が入り、例年になく寒い今年の秋、病み上がりの子どものおりましたこともあってそこで泊まるのは断念しました。子ども達は当スクールの講師で日本歴史学協会会員・松永先生の縄文時代の生活のお話にも興味津々に聞き入ったり、いなばを守る女性ネットワーク会員・大塚さん指導による「バクテリア生ゴミ処理器」作りも珍しそうにやっておりました。これまでずっと一緒に作ってきました青島北小の4名が、スポーツ少年団の大会のため今回の茅葺き1泊古代体験に参加出来ず残念でしたが、来月の屋根作りには是非参加して貰って

たて穴式住居生活を体験して貰いたいと思っております。本誌をお読みの皆さんももしお近くでしたら見てやって下さい。最低でも5,6年はもつと思いますし、もってほしいですね。それこそ1年がかりでみんなで作り上げたものですから。

”こんな私にも再び講演依頼。「不登校を考える討論会」開催の新聞記事に。”2002.11.2(sat)

昨年10月に続き、またほんとお恥ずかしい限りです。今月21日、藤枝市内でこの私が現職の養護教諭の先生方を前にしてお話しすることになってしまいました。勿論このお話はもっと前にありましたが、いよいよその月になりますと、どのような内容をお話ししようか、今から気を揉んでおります。そのためもあって、先日10月19日、名古屋で終日行われたTAネットワークの研修会(交流分析研修会)に出席して、芦原先生の明快な解説と、久しぶりに杉田先生の優しい語り口の講義を聴き、加えてこれまで10年近く関わってきました様々な不登校の子ども達の対応記録を見直しながら、また私の机に散乱しております心理学の本を拾い読んでみたりして、講演骨子をあれやこれやと考えております。

そんな折2,3日前の静岡新聞に、「不登校を考える討論会」開催の記事を見付けました。読めば、静岡市内の学習塾が「どうして学校に行くの？」と題して、元公立高校教頭や中学PTA会長、塾教師らがパネリストとして討論会を開くとのこと。この日誌でも何回か書いたテーマです。最近10月15日にも書きました。現在の学校教育はなぜ学ぶのか、それを教えない仕組みと言われていると書かせて頂きました。即ち、社会の多様化に応じて多様なカリキュラムが必要なのに、その意味で今のカリキュラムは貧困なんですね。だから、子ども達は様々な迷うんです。この討論会は、「なぜ学ぶのか」ではなく、不登校を考える上で「どうして学校に行くの？」を考えることだと言われるかもしれません。でも、そうならばこそ少し観点を広くして、カリキュラムや教育の仕組みに踏み込んで考えていくことも大切だと思うんです。いかがでしょうか？

”数学嫌いへの道 続編” 2002.10.29(tue)

数学に限らず長年教科を教えておりますと、ここはこう教えてこう教えれば分かるという1つの授業パターンというものを持つようになってしまい、時々生徒の反応に鈍くなってしまいます。

随時行われるスタッフミーティングでスタッフから教え方の相談があると、はたとそんな自分に気付くことがあるんですね。そんな意味で昨年、岡本光司・元静岡大学教授(数学教育論)にお願いして行いました「楽しく学ぶ算数指導講座」(NPO静岡県教育フォーラム主催)は、本当にいい勉強になりました。昨日、本テーマでこの日誌を書くきっかけを作ってくれた中1のT君が来まして、先週水・木曜日に個別に指導した内容の復習をやったんですね。中3日経っただけなんですけど、やはり再び自己流に頭の中で計算してしまい、間違えちゃうんですね。あれほどくどくど計算の基本に則り計算式を書きながら計算していくことを教えても、中3日経つと忘れてしまう。これには私自身、その指導方法を少し反省致し

ました。それは計算の仕方の教え方ではありません。

やはり彼にも数学を勉強する意味をもっとしっかり把握させるべきだったんですね。数学は計算の仕方や問題の解き方を学ぶのではありません。筋道を立てて論理的に物事を解決する数学の考え方の修得です。その上で、式の計算や関数、図形の基本的性質などの各単元毎に、基礎・基本・原理を学びながら、それを元に問題を解決していく、それが数学（と私は思うの）です。それは他のどの教科よりもより論理的であり、答えは1つ、はっきりと出ます。それ故、これほどすっきりと学べる教科は他にないと思うんです。”数学嫌い”な子は、その筋道の組み立ての修得が出来てないんですね。

そうです、現在静岡教室で週1日高機能自閉症の児童を、元東工大教授・故遠山啓先生が書かれた「算数の探検」を使って算数を指導しておりますが、その子とのやりとりがとても新鮮で楽しいんですね。それは、今年の算数指導講座同様に、20年目にして再び数学の根本を考える楽しさ、あるいは数学をどのようにして学んでいくかを実感する楽しさなんでしょうね。

”数学嫌いへの道” 002.10.26(sat)

数学嫌いになっていくパターン。こんなこと、ここで改めて”得意顔で”述べるつもりはありませんが、この頃当スクールで数学を指導しております、ふとそんなパターンみたいなものを感じざるをえないのです。言ってみれば、”自爆への道”。（ちょっと今の時代には不謹慎な言葉ではありますが。）勿論、それは突き詰めれば”やる気の喪失”かもしれませんが、その”やる気”も分かればドンドン湧いてくるもの。逆に、分からなくなっていくと益々”やる気”は失せてしまうんですね。だから、私達は常日頃この”分かる”という体験をいかに多く、いや、学習するすべての内容にそういう実感をさせていかななくてはならないと思うんです。

しかし、かといって1から10まですべてを教え込んでしまうと、それは教える側の教師の自己満足に終わりがねない。生徒自身が考え、「ああそうか。」と実感するのでなければ、”分かる”と体験ではないと思うんです。そこで、じゃあ何故”筋道を立てていって答えを導く”数学が嫌いになっていくのか。そこなんです。 ”筋道”を立てられないんですね。

何故？例えば、正負の計算でお話しします。(正) + (正) = (正) は誰もが分かると思います。でも、(負) + (負) = (負) はどうしてそうなるか説明できますか？勿論、身につまされる卑近な例ですが、借金を考えれば、簡単に説明できますよね。ところが、生徒によってはこれが疑問になります。(正) × (負) = (負) となると、すぐに説明できない生徒が出てきます。ましてや(負) × (負) = (正) となると、いわゆる”出来る子”でも説明出来ない生徒は多いんです。勿論、この説明は教科書に載っております。しかし、数学嫌いな子は教科書のそうしたところを読まないんです。その基本を疎かにして、しっかり理解しながら学習していかないから、数学が分からなくなるんですね。その原因は、やはり学習が受け身になっていることじゃあないかと思えます。

もう少しお話ししたいんですが、今から富士にたて穴式住居のかや刈りに、子ども達と出かけます。続きは、また後日。

“南新屋町内会、青島第8自治区運動会で、2年連続綱引き&総合優勝！！！”

2002.10.23(wed)

我が町内会はすごい！です。やりました！

非常にローカルな話題ですが、先日10月20日(日)に行われた、ここ藤枝の第26回青島第8自治区運動会で、我が南新屋町内会は昨年に続き、2年連続3度目の綱引き&総合優勝を成し遂げたのであります！！最後の小学生から40代までの男女が出場する総合リレーで、優勝こそ出来ませんでした、アンカーのG氏が最後の第4コーナーで、2位の新南新屋町内会(総合リレー前までの総合得点で我が町内会を3点差で押さえて第1位だったんです！)のアンカーを交わしてゴールイン。得点で4点差を付け、辛くも総合得点、僅かに1点差で総合連続優勝を果たしたのであります。

し・か・し、その優勝の立役者のG氏、ゴール後足がもつれ肩からグラウンドに倒れ込み、右鎖骨を骨折。気の毒に大変な”名誉の負傷”をしてしまったのです。でも、ありがとう！Gonちゃん。このG氏の秘策が今年も功を奏し、綱引きも連続優勝！最高であります！今年もこの綱引きは最後尾を任せて頂きましたが、前列が大変頑張ってくれましたので、正直楽でした。そう、当然に慰労会は盛り上がりました。

ありがとうございました！m(____)m

”怠学に思う” 2002.10.15(tue)

ちょっとご無沙汰致しました。2件法律上の相談がありまして、調べたり、知人に相談したりで、この日誌も失礼させて頂きました。

昨日は不登校生を含む子ども達5人を引き連れて、掛川の牧野塾・牧野ファーマシー薬局様の里山にお邪魔しまして、手打ちそば&燻製作り、里山遊び三昧させて頂きました。先週6日に続いての活動、人が群れ集うことの楽しさを味わいながら、ふとタイトルの”怠学”について考えちゃいました。

特に中学校や高校で広がっておりますこの現象。ちょっと勉強が分からなくなると、「海外に行かなければ、英語なんて関係ないじゃん。」「そんな数学なんか知らなくても生きていけるもん。」などと開き直る。「先生におべっか使ってくそまじめに勉強するより、今でしかできないことを楽しまなくっちゃ。」とガングロ、ピアス、茶髪・金髪どころか、まあびっくりのカラー髪に耽る若者。高度経済成長を成し遂げた日本も、バブル経済の崩壊から構造不況が長引き、厳しい就職戦線も手伝って生まれたフリーター。

価値観の多様化が社会の多様化を産み、それに伴って学校の多様化が要求されながらも、それに対応仕切れない教育界。なぜ学ぶのかを教えない現代日本の教育の仕組み、カリキュラムの貧困さがそうした怠学を産み出してきたと言われる。なるほどと思います。勿論その

根は、久しく叫ばれ、改革を繰り返してきた大学の入試制度にあります。様々な改革に取り組んでおります小泉内閣。でも、こちらも抜本的な改革を早急に進めなければ大変なことになると危機感を感じます。そう叫んでいる間にも子ども達は生まれ、成長していきます。我々は学習塾の立場からなぜ学ぶかと問いかけ（それは単に受験勉強という建前論だけではありません）、NPOの立場をもお借りて、我々に出来る範囲で教育の多様化を実践しているつもりです。

” たっくん” 2002.10.8(tue)

先日 10 月 6 日（日）、天竜・相津マリーナで行われた 8 名のスタッフのカヌー練習に、小学 3 年生から中学 3 年生まで計 6 名の子ども達がついてきて、また久しぶりに楽しい秋の 1 日を過ごしてきました。この夏、信州・八ヶ岳で行われた「夏さわやか合宿」に参加してくれた高校 1 年生のたっくんも、今回初のスタッフ研修として参加してくれて、彼の底抜けに明るい性格と、どんどん子ども達の間に入っていき姿に子ども達も大喜び、ついそのことをここにも書きたくなっちゃいました。姉と兄がいるたっくん、弟がほしくてたまらなく、小さな子ども達が大好きと、こうした活動に参加してくれてたんですが、その言葉通り。子ども達もそんな気持ちが分かるんですね。ちょっとまた一緒に行く男の子がいないことから前日まで参加を渋っていたあの貴司君が、たっくんにずっとべったり、ほんと楽しかったようで、貴司君を誘い続けた私も嬉しい限りでした。こうした活動の基本は、やっぱり子ども好きなことですね。子ども達は実に感性で反応するもの。理性でも、言葉でもない、行動に反応し、感覚的に正直に反応するんですね。その意味で、自然に対応するたっくんに、ごく自然に群がる子ども達。これがリーダーとしての第 1 歩かな、なんて思いました。

たっくん、初のリーダー研修で、一発合格！大きな大きな太鼓判を押しちゃいます、ドーン！なんてね。勿論、他のリーダー達もそれぞれに良かったですよ。

” NPO・冬ゆめとびら合宿、助成選考されず。賛助企業募集！” 2002.10.3(thu)

ご存じの通り、NPO法人静岡県教育フォーラムでは学校の長期休暇毎に、大自然体験や仲間作り、更には不登校生の学校復帰を目論み、小学生から高校生が参加する合宿を実施しております。これまでテレビや新聞などのマスコミでも取り上げて頂いております通り、賛助企業の皆様を始め、大学生を中心とするスタッフのご支援・ご協力のおかげで確実にその成果を出させて頂いており、大変感謝しております。

この冬も「伊豆・戸田村 冬ゆめとびら合宿」を計画しております。8 月下旬、夏期講習真っ直中深夜コツコツ書類を書き上げ、助成金を申請しておりました財団法人静岡県労働者福祉基金協会の「2002 年度 NPO 法人活動助成団体」に、9 月 27 日、残念ながら当フォーラムは選考されませんでした。申請 34 団体中、6 団体が選考されたとのこと。今年度から当フォーラム事務局教室は、場所は静岡オープンスクール本部藤枝教室を共用しておりますが、学習塾とは切り離して藤枝市教育委員会より「民間出席認定施設」として認定

されましたことから、現在 8 名ほどの不登校生の対応・指導を行っており、その数は月毎に増えてきております。こうしたことから、こうした合宿はその成果を出すには大変大切な活動と捉えております。

そこで、9 月 15,16 日のスタッフの下見合宿（勿論参加費はスタッフ全員自己負担でした。）の成果を踏まえ、当初の計画を見直し、参加費を極力押さえるべくマイクロバス使用をやめ、スタッフの車を借り上げ、東名利用を避けたりして経費削減を図りましたが、このご時世、やはり企業の皆様のご支援をお願いせざるをえない状況になっております。本ページをお読み頂いております企業の皆様、こうした趣旨をご理解の上、是非同合宿にご支援を賜りたく、宜しくお願い致します。

” 静岡オープンスクール創立 20 周年” 2002.10.1(tue)

昨日藤枝市勤労者福祉共済会より、勤続 20 年のお祝いの F A X が来まして気が付きました次第です。今の塾を始めて、もう 20 年なんですね。なにかあつという間に感じます。学生時代に会社を興し、途中 3 年余の住宅会社勤務を除くと、数えれば 24 年間教育事業に携わってきたこととなります。ほんとこれも一重にこんな私を支えて頂きました数え切れないほどの生徒の保護者の方々や諸先輩、更には私の愚妻を含めたスタッフの皆さんのお陰と、厚く厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。勿論これも 1 つの節目、私ももっとも自己研磨し、より創造的に、且つより積極的に取り込む”意味ある人づくり”のお手伝いが出来ますよう、精進・努力していくつもりでおりますので、今後とも宜しくお願い致します m () m . . . ちと堅い挨拶だったかな？

” ゴミ焼却炉問題に思うこと。” 2002.9.28(sat)

明日 9 月 29 日（日）午後 1 : 30 ~ 3 : 30、藤枝市生涯学習センターの 1F ホールにて、環境フリージャーナリストとしてご活躍中の津川敬氏の「新しい巨大ごみ処理場って一体どんなもの？」と題する講演会と、併せてゴミ処理についての学習会が開催されます（参加無料）。昨年末、藤枝市長の政治決断？によって突然藤枝市助宗地区に、藤枝・焼津・岡部・大井川 2 市 2 町のゴミ焼却炉・ガス化溶融炉の建設決定が新聞報道されて以来、地元住民達は、ただ環境への影響から反対の意思表示をするだけでなく、いち早くゴミ処理問題についての勉強会を始め、毎日出されるゴミの約半分を占める生ゴミの堆肥化によるゴミ減量化の実践をも行いながら、全国で展開されている同様なゴミ処理施設問題を徹底的に調査・研究し、ゴミの減量化・細分化・リサイクル化を基本とした建設的な意見を提案しております。その熱心な対応には本当に頭の下がる思いです。

助宗と言え、現在 N P O 静岡県教育フォーラム・わんぱく自然の里の「たて穴式住居作り」で大変お世話になっております地域。そのこともあって私もこのゴミ焼却炉建設問題には強い関心を抱き、この間色々と勉強させて頂きました。私もその意見には全面的に賛同致します。ただ反対ありきではなく、まずゴミ処理問題の勉強から始め、より深い調査・研究

と激しい議論を重ねて地元としての建設的な意見を取りまとめてきた姿勢は、これからの住民運動のあり方をも示していると思います。頑張ってください。

ゴミ処理問題は私達自身の問題です。私達も早速身近で出来るゴミ減量化を実践していきましょう！残念ながら明日は私はNPO静岡県教育フォーラム主催の「志太地区進学相談会」のため参加できませんが、皆様は是非ご参加下さい。宜しくお願い致します。

” 同好会健在！嬉しかったですねえ。” 2002.9.26(thu)

行って参りました。息子と同世代の大学生が男女の別なくバレーボールを楽しんでいる様子を見ていて、ホント嬉しくなっちゃいました。明らかに高校時代、あるいは中学校時代からバレー部で活躍していたことが分かる子もいれば、この同好会に入って初めてバレーボールを触ったかなって思う子まで。得点が決まれば両手を合わせて讃え合うのは、勿論我々の時と同じ。嬉しかったのは、失敗しても手をタッチして励まし合う姿。我々の時は「ドンマイ」と声を掛け合っただけなんですけど、あの姿はいいですね。男女混合の6人制も当時のまま。勿論、この26年もの間にいろんな変遷はあったと思いますが、当時の同好会の趣旨はしっかりと引き継がれ、あるいは、より強められ、根付いていて、何よも嬉しかったです。私とは言えば、やる気満々で行ったものの、30分のアップで汗びっしょりになるも、7始めに起こした肉離れをかばった右足のふくらはぎがちょっとヤバイ状態になり、見学と判断し、皆様の姿を見させて頂きました。途中、「セッターだけでいいですので、参加してくれませんか？」と声を掛けて下さった副会長さん達。お気遣い、ありがとうございました。先週から少しずつ運動を始めたばかり。皆さんの本当に楽しそうなバレーを見させて頂き、私も少し体重を下げながら、体を鍛え、皆さんと一緒にバレーを楽しませて頂くかと真剣に考えております。また時々参加させて下さい。そうだ！年会費も用意しておかなくては…。バレー同のみなさん、ありがとうございました。

” こちらは26年振りの同好会か？” 2002.9.25(wed)

こちらのもいや～ホント懐かしい話です。今月の中頃、うちの静岡教室でお手伝いして頂いております静岡大学教育学部のてるこ先生と話をしている、彼女が現在静岡大学バレーボール同好会会員と知り、びっくり。実はその同好会は、私が静大2年生の時に創った会なんです。私が同大1年生の時自主ゼミとして作った万葉集ゼミ（万葉集を唱うゼミ）の仲間でバレーボール好きな友達が集まり、バレーボールを楽しみたいとのことで、同大バレー部監督のI先生（今もいらっしゃるのかな？）に相談して、「静岡大学バレーボールを楽しむ会」を創設。結成してまもなく開かれた開学祭のバレーボール大会にいきなりの優勝。それもそのはず、メンバーは愛知県選抜（候補か）のエース・Y君、対角にサブエース兼セッターの大阪・天王寺高校バレー部出身のT君（現弁護士）、もう一人のサブエースの愛知・時習館高校バレー部出身・長身のM君、女子には副会長のKさんを始め、清水東高校バレー部出身の面々を要しておりました。私とは言えば、中学から高校1年までは（藤枝東です）、

剣道（一応有段者）。ドクターストップで剣道を諦めてからは、高校が高校だけにサッカー観戦三昧。中学校から好きだったバレーをようやくやることができ、一応セッターをさせて頂いておりました。

会員もまもなく30名、60名、90名と増え続け、1年後は100数名、体育館の横のバレーボールコート4面を借り切った練習。1年後の同じく開学祭バレーボール大会も連続優勝！遂に静大バレー部監督先生からスカウトのお話が来たんですね。その時移籍したY、T両君が加わった静岡大学バレー部もその年、東海大学リーグ2部で優勝、念願の1部リーグ入りを果たしたのです。その頃、先生に名称を、『バレーボールを楽しむ会』なんてあやふやな名称をやめて、『バレーボール同好会』にしなよ。」と言われて、2代目会長の時に改称、現在に至っていると思います。

卒業後、確か全日本女子代表合宿のお手伝いの時に1度顔を出したことがありますが、もうメンバーはガラリと変わっており、当然ですが全く知らない会員達。それ以来すっかりご無沙汰しております。先輩面するつもりは毛頭ありませんが、人の出会ってホント不思議ですね。明日（26日）てるこ先生と同好会の練習に参加しようと思っております。楽しみです・・・先日のこの地区の町内会対抗ソフトバレー大会は、我が南新屋Bチームは準優勝！私メのAチームは予選で惜敗。体力の限界を感じました。この機会にやはり少しずつ運動しようかな。（一部の文、静岡大学バレーボール同好会HPに投稿致しました。）

” 33年振りの読書。” 2002.9.22(sat)

いえいえ、この33年間本を全く読んでなかったんじゃないやありませんよ。33年も前に読んだ本をもう一度読み直したのであります。いや～懐かしかったですね。中学2年生の頃を思い出しながら、つい読み耽っちゃいました。

3日前、授業の終わりにふと見上げた本棚に懐かしい本を発見。宮崎博史著「もっか勉強中」（秋元書房）。中学2年生の誕生日に、同級生から頂いた本であります。高校3年生達の、約8ヶ月に渉る受験勉強生活を描いた物語。当時こんなに純な物語を読んでいたなんて思うと、ちょっと気恥ずかしくなっちゃいますが、この歳になって読んでみるのもいいもんです。こんな淡い感情なんぞどこかに置き忘れてしまい、すっかり”おじさん”になってしまった自分を感じてね。・・・さあ、今からこの地区の町内会対抗ソフトバレー大会。大古、森田、横田達（分かるかなあ、分かんねえだろうなあ？今の若者達は。ね、分かる人は同じ世代ですよ。）になった気分で、すっかり重くなってしまった体を持ち上げ、頑張ってきて来ます。今夕は”2年連続優勝パーティ”かな。おっと、肉離れには気を付けよう。

” 授業についていけないつらさ ” 2002.9.18(wed)

このところ小中学生の頃不登校を経験した数名の若者と会い、彼らが学校に行けない頃のつらい思いを聞く機会がありました。ここでその詳しいお話をすることは出来ませんが、彼らがなぜ学校に行けなかったかについて共通したことが、タイトルの学校の「授業に

ついていけないつらさ」だったんですね。勿論これがすべての不登校の原因だと断定しているわけではありませんが、少なくとも”彼らの視点”からはこのことが大きく立ちふさがっていたんですね。

高度に発達した科学技術社会において、その社会で生き抜いていくために当然に子ども達は高度な知識と技術の習得を要求される。それがために生まれた「学力偏重社会」。私が会った彼らは不登校になる前、決して「成績」が悪かった訳ではなかったんです。いや、むしろ中には5科目合計が200点（1科目50点満点）を裕に超す子もおりました。そんな彼らゆえに、大きく体調を崩して1週間、10日と休むと、学校の勉強が分からなくなり、つらさが増してきたと、彼らは言うておりました。多分全部が分からなかった訳ではないだろうと思います。しかし、ちょっとした疑問がほぼ完璧に理解してきた彼らゆえに「困ったこと」になり、その積み重なりが「つらさ」になっていったと思います。

そんな折、下見合宿で読めなかった16日付けの静岡新聞を読んでおりましたら、『学調』比重、高まりそう。公立高校入試、学力重視が拍車。』との記事。あ～あ。サブタイトルに、「校長会、慎重さ求める。」確かに今回の高校入試改革は学力重視の傾向ですが、その学力とは何かをもっと論議すべきだと強く思うんです。

”伊豆・戸田村冬ゆめとびら合宿の下見、終わる” 2002.9.17(tue)

行って参りました！伊豆・戸田村、ゆめとびら舟山。

伊豆半島西海岸・断崖の中腹に位置し、宿泊棟に研修棟、食堂棟、更に、グラウンドにキャンプサイトを併せ持ち、海水からの塩作りも出来る釜もある、私達には大いに楽しみな施設でした。静岡スタッフと都留文大の”キュートな”スタッフ達に、この8月の静岡県ボランティア協会リーダー派遣事業から加わりましたO君と、今回の下見から加わって貰いました都留文大2年生・K君、法政大学3年生・G君を交えてのスタッフ会議。学生スタッフの皆さん、自費参加で大変申し訳なかったんですが、1泊2日ゆえに企画の話し合いは勿論のこと、私には連夜の午前2時頃までの懇親会でスタッフ同士の親交もより深まり、とても良かったですよ。

最後に沼津港で、新鮮な海の幸を安く、そしてじっくり味わって貰おうと行ったお店がいつも通りの行列。やむなく入った別のお店が料理の割に値段が高く、ちとがっかり。まあ、でも、これで冬の合宿の資料作りに入ることができ、参加者募集とそれぞれの活動の具体的な準備に入れます。スタッフの皆さん、これからも宜しくお願い致します。特にO君にK君、G君、これからの当フォーラムの活動に是非自分を生かして下さい。宜しく～！

”伊豆・戸田村に、冬の合宿の下見に行ってきた～す！” 2002.9.15(sun)

昨夜って言いますか、本日の朝2時半頃まで、日頃NPOでお世話になっておりますW学院のK先生と、D学習塾のM先生と楽しくお話しさせて頂き（要は飲み会ですが）、眠い目を擦りながらこの日誌を書いております。

タイトル通り、本日は来年春のいよいよの夢の海外合宿の打ち合わせを兼ね、今年の暮れの冬合宿の下見合宿に行つて来ます。これまではNPOの方はどちらかと言いますと、私の企画を理事の皆さんにご承認頂き活動してきましたが、昨年の冬合宿から育ってきました学生スタッフを中心に、スタッフみんなで企画から参加すべくこうしたことを行つております。ついでながら、小中学生5名も参加、総勢18名の1泊2日の下見合宿となります。楽しくなりそうです。またこの日誌にその様子を書こうと思つております。では、行つて参ります。

”高2で大検全科目合格、おめでとう！” 2002.9.13(fri)

「北の国から 2002 遺言」も見てしまいました。じ〜んと感慨に耽つておりまして、すっかりこの事を書くのを忘れておりました。

おめでとう！M君。正確に書くと「高2」ではないんですが、そんなことどうでもいいよね。よかったね。あの笑顔が良かったよ。自分の夢の実現に大きく1歩近づいたね。これからは大学受験に向けての勉強が目一杯できるよね。がんばろう！うちにはそれこそ東大を目指している子から短大を目指している子と様々いますが、目的はみんな君と同じ、自分の夢の実現なんだ。目的を持って歩んでいること、素晴らしいことですね。昨日お母さんと一緒に話し合ったこと、忘れないで実行していこう！ご両親も喜んでバックアップしてくれるんだよ。もう今日から次の階段の第1歩だね。

”北の国から・記憶” 2002.9.12(thu)

う〜〜ん。・・・言葉にならないですね。・・・今、こういう時代だからこそ・・・。なんとも言えない純粋な親の愛。・・・いや、それは、いつの時代もそうなんだろう。・・・33年前、家族で訪れた富良野。あの舞台になった家。石造りの家に、富良野駅。次々と蘇ってきます。

”学校に行けない・・・” 2002.9.11(wed)

授業に出られない・・・。みんな、そんな自分をどう思っているのだろう？

ちょっと思い出してみた。小学2年生の時おたふく風邪で、3日間学校を休んだ記憶にある、最初に学校を休んだ時。確か初めの2日間は、家の居間に布団を敷き、寝ては、食事の時だけ起きあがって、また寝る。今の子ども達には不思議と思われるが、テレビもない頃で、3日目になると、ようやく熱も下がり、頬の腫れもすび、暇つぶしに学校の教科書を眺め、届けられた予定表を見ながら、みんな今国語の勉強をしてるんだ・・・なんて思いながら、一緒に教科書を読んでいた記憶がある。これも確かちょうど日曜日が繋がり、5日目にいよいよ学校に行けることになり、前の晩は少し思い悩んだね。みんななんて言ってくれるんだろう？なんてみんなに言えばいいのかなあ？いや、みんないつもと一緒に、僕が休んだなん

て気にしてないかもしれないなあ？・・・。

病気だったら、そんな思いで終わるんだろうが、学校に行けない日々が続くと、子ども達の思いは様々。自分自身では分かっている言葉では表現できない気持ちに、あるいは言っても分かって貰えない思いに苦しみ始める。そのうち、その解決の糸口さえも見失ってしまう。2学期になって10日余り。再び不登校の相談が入り始め、ひとり一人の面談メモを見ながら、明日のその子の面談方法を考え、いつしか空も白み始めてしまった。9.11・・・。

”夏期講習、おわった～！” 2002.9.7(sat)

何よ！夏休みなんてもうとっくに終わって、1週間も経ってるのに～！なんて言われそうです。そうなんです。確かに夏休みも終わって、もう1週間も経ちました。でも、私、ここに来てようやく夏休みの疲れが取れたんであります。いやはやお恥ずかしい限りでございます。ここ毎年であります、疲れますねえ。しかし、しかし、であります！嬉しいですねえ。今年もこの夏期講習をきっかけに、ガゼンと勉学に目覚めた生徒が3名現れました。中1のT君と中2のT君、それと中3のM君です。ホント嬉しいですねえ。がんばれ！

”夏期講習小景” 2002.8.29(thu)

このところ本誌も、NPOの話題一色。しかし、勿論のこと、私も”塾屋”であります。夏休みも今日を入れてあと3日。受験生にとってははいよいよ”夏の天王山”、”夏の陣”終盤です。この夏の頑張りがこれからの受験勉強を大きく左右致します。むやみに”受験勉強”を掻き立てるつもりはありませんが、若い頃のひととき、一生懸命勉学に勤しむのもいいことだと思います。”受験テクニック”修得のみの無味乾燥な学習は、子ども達には飽きられます。昨夜も、静岡教室の補習学習に中学3年生が3人来て10時過ぎまで、夏期テキストの学習にああだ、こうだと言いながら一生懸命勉強しており、私も時折彼らの質問にメモ用紙片手に、「こうだからこうなってこうなるんだよ。」と個別指導。”分かった”時の子ども達の顔は、なんともすがすがしい。

そんな一方で、ある母親から、「先生、今日は息子は頑として塾に行きたきたがらないんですよ～。どうしましょう？」との電話が入る。特に英語と数学、国語の基礎学力が出来ておらず、この夏休み、その定着に一生懸命勉強をしてきたものの、ちょっと息詰まってきたんですね。ここはちょっと緩めましょう！と、お休みを決定。と、目の前の中学3年生のノートを見て、ちょっとびっくり。自分が解けなかった数学の問題を解くカギになった基本事項をまとめたノート作りをしてるんですね。この子もこの夏休み、こうして何日か夜自主勉強に来てるんですね。・・・夏は様々。

あっ！そうそう、昨日夕方、静岡リビング新聞社の取材を受けました。うまくいけば、9月12日発行の同紙に掲載されるようです。楽しみやら、ちょっと不安やら。掲載されましたら、お読み下さい。

”「夏期講習真っ直中、暫し休憩させてくわさ〜い！」って言うつもりだったんですが、玉川キャンプのホント嬉しい感想文が vvvvvv 届いちゃうと、やっぱ書かなくてはいけなくなっちゃいました。その3” 2002.8.27(tue)

(「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

” わんぱく自然の里」のページを是非お読み下さ〜い！” 2002.8.25(sun)

過酷な毎日です。今日も仕事であります。文句は言えません。自分で計画しちゃった日程なんです。受験生の中学3年生と高校3年生の諸君！がんばろう！

と、そんな中、またまた嬉しい感想文を頂きました。皆さんに紹介したくて、本ホームページ「NPO静岡県教育フォーラム わんぱく自然の里」(現在は閉鎖 2020.8)の冒頭に掲載させて頂きました。是非お読み下さい。こうした活動を始めて27年余、このような感想文を頂くからこそやってこれたんですね。

ありがとう！貴司君&参加してくれた皆々様。

”「夏期講習真っ直中、暫し休憩させてくわさ〜い！」って言うつもりだったんですが、玉川キャンプのホント嬉しい感想文が届いちゃうと、やっぱ書かなくてはいけなくなっちゃいました。その2” 2002.8.23(fri)

(「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

”「夏期講習真っ直中、暫し休憩させてくわさ〜い！」って言うつもりだったんですが、玉川キャンプのホント嬉しい感想文が届いちゃうと、やっぱ書かなくてはいけなくなっちゃいました。その1” 2002.8.22(thu)

(「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

” 夏期講習真っ直中、暫し休憩させてくわさ〜い！” 2002.8.21(wed)

という訳です。いつもながらこの時期は大変です。朝9時からの藤枝教室中学3年生の夏期講習に始まって夜10時半までの東進衛星予備校の質問受けまで、途中車の中で昼食、夕食を取りながら働き巻くっております。なのに、なかなか増えない収入(^^;;;;。この日誌、暫し休憩させて下さいませ。

8月10,11日の静岡市「たちあおい会」の玉川キャンプ、楽しかったですね。最初120名と聞いてうちのリーダー達でできるなかあと心配してたんなんですが、みんなよくやってくれました。嬉しくて帰りに、近くの蕨野温泉で温泉&手打ちそばをご馳走しちゃいました。結果、また赤字(^^;;;;。ま、いいか。

8月14~16日の菅平への家族旅行。ペンションチロル様、よかったですよ〜！愛犬家にとってやっぱりペット同伴は何よりもうれしいです。うちのラッシー君、大喜びでした。ち

と大きい犬にはビビりましたが・・・。

共に、9月に入って時間ができたら、また書かせて頂きます。失礼しま〜す。

”夏さわやか合宿、大成功！スタッフリーダーの皆さん、ありがとう！” 2002.8.8(thu)

NPOとなって1年半。こうした野外活動指導者養成も昨年の4月から始め、十分な指導でなかったにもかかわらずスタッフリーダーも大分育ってきました。

そこで、今回の夏さわやか合宿から企画の運営もなるべくスタッフリーダー達に任せ、併せて、活動も食事作りに振り回されることのないよう、体験と仲間作りを主に行ってきました。

結果、ホント大成功でした。みんなよくやってくれました。ありがとう！そのため、2日前ようやく参加する事になったけがのT君も車いすで大はしゃぎ。姉EちゃんもT姉妹と友達になり、大分楽しかったようです。

当企画の新聞報道で参加してきました2組の静岡市の小学生達も、リーダー達を手こずらせるほど元気いっぱい。

沖縄合宿から続けて参加のI君も、前述の車いす参加のT君の面倒をよくみてくれ、成長したね。

今回スタッフ・リーダーとして初参加の都留文科大のYちゃん&Mちゃん、京都外大のMちゃん、カルフォルニア留学のS君、どうでしたか？ご苦労様でした。

Yちゃん&Mちゃん、キャンプファイヤーのフォークダンス、よかったよ。ただ、折角考え出したオリジナル版もみんなに披露して貰いたかったね。あれやったら、更に盛り上がったかもね。Mちゃん、十分な打ち合わせができなかったけど、担当をテキパキとこなしてくれました。子ども達への対応も実に自然でよかったよ。S君、先ほどのT君が大はしゃぎできたのは君のお陰です。ありがとう！

そうそう、これまた3日前に参加表明してくれ、サブリーダーとして参加してくれた高1のTAっくん。グループの子ども達からは兄貴のように慕われ、それがためにグループもよくまとまり、よかったよ。これからは是非是非参加して下さいね。

繰り返すけど、ホントみんな、ありがとうございました！

”信州・八ヶ岳 夏さわやか合宿、いよいよ出発です。” 2002.7.26(fri)

あと5時間半でいよいよ出発です。平成14年度静岡県地域青少年総合推進事業費補助金の交付を受け、参加者19名、参加スタッフ14名、計33名、元気で行って参ります。活動報告を楽しみにお待ち下さ〜い！ね。

”NPO法人静岡県教育フォーラム事務局教室が民間出席認定施設になりました！これまでの皆様のご支援に感謝致します。” 2002.7.18(thu)

” いいことです！菊川町児童館・なんでも実験” 2002.7.17(wed)

学校完全週 5 日制実施に伴っての今回の菊川児童館の企画、大変いいことだと思いましたね。ただ私、左足肉離れゆえに、児童館の職員の皆様を始め、ご一緒頂いた菊川町のゆう学習塾塾長の平塚先生（NPO静岡県教育フォーラム監事）には大変お世話になりました。ありがとうございました。勿論NPO静岡県教育フォーラムとして講師にお招き頂いたんですが、学校完全週 5 日制実施に志を同じくする学習塾・企業が会員として組織しておりますNPOが、その特技を生かしてこうした形（身近な物で自然科学を学習する「なんでも実験」教室）で協力できることは大変意義あることと思ひ、快くお引き受けさせて頂きました。当日雨のため 5 名の欠席、25 名の参加者で行いました。5 年生が 5 名、他は 4 年生以下、低学年にいくほど多かったです。最初、風船ホバークラフトの作り。下敷きとフィルムケースのふたと付ける瞬間接着剤が乾くまで（これじゃあ瞬間接着じゃあないよね）、キャベツ紙作り。その合間に、フィルムケースの底を切って風船付け。25 名、低学年が多いと結構面倒を見なくちゃならないんで、ホント平塚先生&職員の皆様にすっかり甘えちゃいました。それが片づいた段階で、シャボン玉のインク通し、空気温度計を披露。色んな予想を出て楽しかったんですが、これは少し学年を分けてやれば、もっと知的好奇心をくすぐる実験ができたかもしれません。電気くらげ実験は、なかなか静電気が起きず、失敗、お愛嬌。それぞれの実験について、平塚先生&職員の皆さんに事前にしっかり説明しておけば、戸惑いもなくできたかなと反省しておりますが、初めての企画としては大成功だったと自負しております次第です。

” 学習塾とNPOとの関係” 2002.7.8(mon)

学校週 5 日制完全実施 3 ヶ月。先月県教委主催で行われたこの件での学習塾との懇談会を機に、NHKを始め、県ボランティア協会の小冊子の編集部、一昨日からは読売新聞社と、このごろ雑誌やマスコミの取材を受けることが多くなっちゃいました。

そこで、決まって皆さんから聞かれることがこの学習塾とNPOの関係なんですね。というのは、マスコミは学校週 5 日制と学習塾をテーマに取材したいのに、ご存じの通り、私共の場合週休 2 日制を生かしての体験学習は、学習塾としてではなくNPOとして行っているからなんですね。確かに私の場合、27 も前の大学 2 年生の時、ある方のご支援を受け会社を興し、野外体験指導と学習指導を始めてからこのかた、約 4 年間のブランクはあるものの、長く学習塾としてキャンプや野外体験指導、身近な物でできる理科実験教室などを行って参りました。ところが、8 年前不登校の相談が入り、本格的に心理カウンセリングを学びながらその対応を始めてからはそうした相談業務は協同組合として行い、そのうちにそうした活動をご支援下さる企業の皆さんが現れましたことから、皆様のご協力の下にNPO設立し、「オープンフォーラム」として不登校生の学習指導や相談・対応を、「わんぱく自然の里」として各種のクラブで野外体験指導、理科実験教室などを、「心理学フォーラム」として心理カウンセリング研修や心理学の勉強会を、そのほかに高校・大学進学相談会など

を行っております。

従いまして、静岡県教育フォーラムは静岡県内全域を対象に活動するNPO故に、現在「わんぱく自然の里」の活動につきまして、当フォーラムの会員塾はこうした活動に生徒を参加させたり、指導者として参加したり、また、心理カウンセリング研修は受講生として参加したり、更には、上記以外の活動を理事会の承認の元、「NPO静岡県教育フォーラム〇〇支部□□塾」として開催したり、「NPO静岡県教育フォーラム後援」として行ったりしております。私の静岡オープンスクールでは、「数楽クラブ」と「理科実験クラブ」は、現在塾もNPOも指導者は静岡オープンスクール塾長の私であるため、NPOと合同の形を取っております。「わんぱく自然の里」のそれ以外のクラブやキャンプは、希望する塾生を参加させており、その指導スタッフに、希望する当スクールまたは東進衛星予備校藤枝駅前校OB・OGの大学生を参加させております。

また、不登校生の対応・指導は「オープンフォーラム」としてNPO事務局であります当スクール本部藤枝教室で行っており、先週末まずは藤枝市教育委員会から当事務局教室が「民間出席認定施設」として認定されました次第です。勿論、当フォーラム会員塾で心理カウンセリング研修を受講しながら「NPO静岡県教育フォーラム〇〇支部」として不登校生の対応・指導を行っております塾もあります。今後は、心理カウンセリング研修を積みながら不登校生の対応・指導を行い、その地区の教育委員会から「民間出席認定施設」として認定される当フォーラム会員塾が現れてくることを望んでおります。NPO静岡県教育フォーラムも設立して1年半、まだまだ組織的に十分な体制が取れておりませんが、少しずつ会員塾も含めて統一した形を築き上げていきたいと考えております。

” 20数年来の友人との再会” 2002. 6. 29(sun)

いや～、ホント懐かしかったですねえ。今日は旧友に、ほぼ20年振りに会いました。そのために、税理士との打ち合わせをすっかり忘れてしまいました。ごめんなさい、K税理士様m(____)m。

でも、20年の隔たりをこれっぽっちも感じることなく、きのうも会っていたように気楽に、いや、ホント自然に話せたのが嬉しかったですね。何よりも彼の変わらない顔が嬉しかったです。実は彼と出会ったのは、私が静岡大学の2年生の時なんです。

(以下は、「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

” 若きサポーターの死” 2002. 6. 22(sun)

先週の金曜日夜、訃報が入りました。もう10年になります。中央防犯ACM藤枝SC～藤枝ブルックス～アビスパ福岡と、一緒になって応援してきました南條昌彦君(藤枝市堀之内、享年32歳)の突然の逝去の知らせでした。涙にむせびながら伝えてくる電話の声に、暫し呆然となりました。余りにも若い死でした。

5月5日の今期東海リーグの開幕戦でも、太鼓を叩きながら大声で中央防犯藤枝SCを応援

援していた彼が。元アビスパ福岡のFW・現ベガルタ仙台FW山下選手の日本代表入りを願って作った、「YAMASHITA」のネーム入りの背番号13番の日本代表ユニホーム。藤枝ブルックスが福岡に移転した時はとても悔しがった彼も、何度も福岡にわたってアビスパ福岡を応援し、うちの子どもに土産も買って来てくれました。何年かかっても絶対に待つんだと、ここ藤枝でのJリーグチーム誕生を夢見ていた彼。

大型自動車の整備中、その自動車と壁に挟まれ、即死だったとのこと。2002年W杯日本代表も夢中で応援し、日本とセネガルの対決を本気で語り、日本代表の決勝トーナメント進出を知らずして天国に召されました。10年来の日本一のサポーター。

御冥福を祈ります。

”「学力」再考” 2002.6.11(tue)

一昨日の日誌の県教委主催の懇談会の件。誠に図々しい話ですが、数えれば静岡大学在学中の野外活動事業会社設立以来これまで20余年間の学習塾としての、本格的な野外体験活動や算数・理科実験教室活動をご支援頂いております企業及び個人の皆様のご厚意に報いるべく、昨日早朝電話で県教委に現在はNPO静岡県教育フォーラムとしての活動を紹介させて頂きました。

結果、当日の別件の用事を時間調整し、当該懇談会の趣旨により私メも教育関連事業協同組合の副理事長の立場で当該懇談会に出席してこれまでの活動の紹介をさせて頂くことになりました。勿論、完全学校週5日制の実施に伴い、子ども達の土曜の過ごし方を鑑み、様々な活動を始めた学習塾は私共ばかりではありません。折角の機会ですので、私の知る限りのそうした学習塾の活動も紹介させて頂きながら、当該懇談会の視点であります、土曜日の過ごし方と学習塾の役割、自然体験・生活体験の場と学習機会の確保、学力低下の不安等について意見を申し上げたいと思います。

そこで、一昨日の日誌の続きであります。「学力」再考です。前回の静岡新聞社説に続き、5月3日付け読売新聞の論点で全日本科学教育振興委員会委員長（東京大学名誉教授）の大木先生も同様なことを述べております。先日の日誌でこれまでの日本の教育を「勤勉教育」と表現しちゃいましたが、大木先生は、「学力」＝「知識量」という定義を産んだのは我が国の教育が儒教を中心として出発したことにあり、宗教の一種である儒教を学習する者は、その内容よりもまず文言の一字一句を記憶することが求められ、社会全体の考え方も「記憶が大事」とする傾向になったと指摘しております。しかし、科学者達は、「実力」は知識の量だけでなく、それを活用して研究に役立てることが重要だとよく分かっており、こうした「学力」に関する多くの国民と科学者達との解釈の差は、学校教育において「文化の伝承」が重視され、創造的な活動が軽視されてきたことによると述べておられます。そこで、先生はこれからの世界で我が国の科学が一流であるためには、今まで以上に忍耐強い問題解決への訓練を重視しなければならないし、知識量と問題解決に努力する力、この二つを兼ね備えた人こそ「学力がある」と言われるべきだと訴えております。なるほどと思います。皆様

はどう思われますか？

” 完全学校週 5 日制の不安！？” 2002. 6. 9(sun)

時は 2002 ワールドカップまっただ中。ご存じの通り、今日は日本の決勝トーナメント進出のカギを握る対ロシア戦。私、稼業が夜の商売(?)だけに、今日はW杯が始まって初めてテレビ観戦ができそうです。しっかり応援しようと思います。

そうそう、昨日の静岡新聞朝刊によると、静岡県教育委員会は本年度スタートした完全学校週 5 日制への対応について、県内の学習塾関係者や学校関係者、保護者、県教委関係者らが意見交換をする懇談会を、14 日県庁で開くらしいですね。当スクールも学習塾として本格的に野外体験活動や実験教室を始めて 10 余年、ようやくこうした活動が認知されようとしていることは喜ばしいことですが、ここまで来るにホント長かったですね。

ただね、これも手放しで喜べないんですね。新聞に書かれたこの懇談の視点、第 1 点、5 日制による土曜日の過ごし方と学習塾の役割。第 3 点の 5 日制実施による時間数削減に伴う学力低下の不安と相まって、いや、そんな世の不安を利用してか(?)、加えて静岡県では公立・私立共に本年度から高校入試制度も変わることも作用して、学習塾の土・日曜講座は大繁盛。「勤勉教育」にどっぷり漬かってきましたこれまでの日本の学校教育からでは、完全学校週 5 日制実施の大変革もなかなか大変ですね。ちょっと「完全学校週 5 日制＝授業時間の削減＝学力低下」なる式に世の中が振り回されているんじゃないですかね。

ふと思い出してスクラップブックを紐解いてみましたら見付けました。今年 2 月 25 日の静岡新聞の社説です。同感です。学力低下を心配する前に、その学力とは何か考えるべきで、憂いでいるのは量としての学力であって、真の学力は質であり、それを産み出す教育力を追求すべきだと思うんですね。また時間ができたら、この件をもっと突き詰めてみたいと思います。

” ちょっと考えちゃう、現代の親子像” 2002. 6. 4(tue)

(「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

” お久しぶりです” 2002. 5. 31(fri)

こう日誌が怠慢では読んで下さる方もいなくなってしまうんじゃないかと反省しております。この間、ようやく NPO 静岡県教育フォーラムの決算及び理事会・総会も終え、やっとひと段落しました。お久しぶりです。そんな中でも好きですねえ、26 日の日曜日、NPO の夏の活動の下見に、長野の八ヶ岳まで行ってきました。前日 25 日の土曜日、スタッフと夏の合宿の計画を煮詰めておまして、やっぱり実際に会場予定の八ヶ岳少年自然の家に行ってみないと分からない、なんて話しておりましたら、この日誌にも登場しましたスタッフの「やよいちゃん」が偶然来まして、だったら、明日行こうよ、ということになりました次第です。途中、都留文科大学の学生スタッフ、ゆみちゃんとさやかちゃん(ウ?!名前出

しちゃったけど、いいよね)を拾って行く予定が、中央道・都留ICを見落としてしまって大月ICで下車、逆走。あの沖縄旅行の迷走もあり、もうナビが必要かなあ。いやいや、待て待て、速度違反の罰金がある(^^;;;、なんて思いながら、初めての田園風景豊かな都留市へ。兩名と合流。あの明るさは変わってないねえ。さあ、いざ八ヶ岳へ。このロスを入れても藤枝から3時間半、早いもんですねえ、自然の家に着きました。さすが海拔1200m、ひんやりと澄んだ空気。職員の宮川さんの親切丁寧な説明を受け、広大な施設の見学の前にまずは小淵沢で腹ごしらえ。やっぱほうとうだねと偶然に寄ったお店が、本当においしいほうとう料理。夏合宿の最終日、このお店でほうとうの昼食を取ることに決定。昼食後、当フォーラム得意のカヌー会場を求めて周辺を車で搜索。大井川のような大きな川やカヌーができる池も無く、今回はカヌー体験は断念。再び八ヶ岳少年自然の家に。広大な施設を見ながら、4台の大型天体望遠鏡があるアストロハウスを見学しました。その4台の大型天体望遠鏡もさることながら、天体観測の時は屋根が横に移動し、満天の空が開けてくる設備にもびっくり。この時期でも大勢の子ども達が自然の家を使用しているとのことと時間の関係で、宿泊棟は見学せず、地図で周辺のハイキングコース等の説明を受け、帰路。有意義な下見でした。ゆみちゃん&さやかちゃん+やよいちゃん、ありがとう！

” ほぼ1年ぶりのサッカー生観戦。” 2002. 5. 12 (sun)

やっぱサッカーはいいですね。あの連続した緊張感がいいですよ。ほぼ1年ぶりにサッカー生観戦をしてきました。しかも2試合連続で。でも、Jの試合じゃあないです。リーグの2つ下の地域リーグ・東海リーグの試合です。確か村上龍氏だったよね、「悪魔のパス、天使のゴール」って、サッカーを表現したのは。当たり前のことですが、サッカーの場合、殆どのパスは得点には無縁なもの。1試合の中でほんの数本のパスが「天使のゴール」を産む。勿論、そんなパスが全くない試合だってありますよね。今日は得点に絡む計8本のパスを見ることができました。その内3本は、”ラス前”パスです。選手達は90分の試合の中で、常にそんなパスを求めて走り回る。だから、ゴールは正に「天使のゴール」であって、ゴールネットを揺らした者は雄叫びを上げ喜び、仲間はラストパスを出した者を祝福する。そんな意味でレベルの高い試合は楽しいですよ。ただ、試合によってはじっと見ていると、途中でそんな緊張感が無くなってきます。そう、そんな時はその試合はまずその後の得点は産まれません。つい席を立ってしまいます。

” ○○○ちゃん、誕生日、おめでとう！” 2002. 5. 10 (fri)

な～てね。日誌上でお祝いもするのもおかしいけど、書いちゃいます。多感な時期、色々悩んだり、と思うと大声で笑って楽しんだり、はたまた、じっと考え込んだり。でも、そうして成長していくんだよね。このところ色んな出会いがあつてよかったね。色んな人を知る、そんな中で自分を知ることになるんだよね。人に甘えたくなくなったり、人を助けたくなくなったり、人に苛立ったり、人にすがりたくなくなったり、とにかく人に話を聞いて貰いたくなったり

り、と思うと、人と離れたくなったりもする。でも、・・・やっぱり人と関わるって楽しいよね。おめでとう！

”いよいよここ藤枝にサッカー旋風吹き荒れる。” 2002. 5. 5(sun)

既にお気づきことと思いますが、この日誌も 3 年目に入りまして大分長文になってきましたことから、昨夜から再編成しております。そんな折、何人かの方々から、いよいよ本日オープン致します「藤枝総合運動公園サッカー場」で行われます、東海リーグ開幕戦・中央防犯対藤枝市役所戦のお電話を頂きました。Jリーグはもう開幕して2ヶ月なりますが、2部制になって初めての東海リーグもいよいよ開幕なんですね。時はいよいよ2002年サッカーワールドカップ。今月16日には、このサッカー場で開幕前キャンプを張るセネガル代表チームが来藤。藤枝駅前商店街を始め、あちこちでセネガルの国旗がはためいております。ここ数年仕事の関係ですっかりサッカー観戦から遠ざかってしまいましたが、世の中がこうなってきましたと、やはり今まで我慢してたんですね。自分自身の中のサッカー熱がうづき始めてきました。思い起こせば、色々とありました、この藤枝総合運動公園サッカー場。藤枝ブルックスのJリーグ入りのために、このサッカー場を藤枝・焼津両市の間地点に、藤枝・焼津・岡部・大井川の2市2町で作るよう、強気に運動した時期もありました。我々の構想を訴えるチラシを作り、ステッカーを作っては運動の拡大を計り、最後には藤枝ブルックス後援会の応援を得て、1週間かかってB4両面にびっしりと書き込み、藤枝市内全家庭に訴えたんですね。しかし、なかなか打ち破ることのできない行政の壁に藤枝ブルックスも、福岡県民55万の熱い要請を受けて福岡に移転。元祖サッカーの街・藤枝に吹き荒れたブルックス旋風も次第に衰え、時々弱く流れる程になってしまいました。再び吹き始めたサッカー旋風。長く続く不況を吹き飛ばし、区画整理も進み、町並みが新たになりつつあるこの藤枝を活気あふれる街にしてくれるように願うばかりです。

”ゴールデンウィークど真ん中、カヌー&スモーク三昧” 2002. 5. 4(sat)

本ホームページの「NPO静岡県教育フォーラムわんぱく自然の里」に公開して一般募集しませんでした。昨日3日ゴールデンウィークの真ん中、アクティ森で、スタッフ4名と4名の子ども達&高校生+引率者1名でカヌー&スモークチキンを楽しんできました。穏やかな五月晴れ、ちょっと日焼けをしてしまいましたが、久しぶりにのんびりできました。4日間仕込んだスモークチキンも好評で(ちょっと自慢)、嬉しかったです。おまけに、春の穏やかな日和に誘われてカヌーに乗りに来たお客さんに、スタッフ達も臨時指導者になってたり、嬉しかったですね。そうそう、参加した中学生の一人が50cmもあろうか、大きなナマズを見つけたようで、今度是非釣ってみたいと、19日のカヌー教室を楽しみにしてました。彼はカヌーは、4月28日の天竜・相津マリーナのカヌー教室に続いて、2回目。大きな体ながらも、バランス感覚は抜群で、覚えも早く、初めてその日の午後には、繋がっております天竜・船明ダム湖のど真ん中まで一人で行くことができ、大感激しております

した。回りにも大変気を使う子で、送ってきてくれたおばさんにもカヌー体験を勧め、しっかりカヌーコーチもしておりました。彼だったら、川でのカヌーもちょっと練習すれば、川下りカヌーも十分できるんじゃないかな。話がちょっとそれちゃったけど、そのナマズもこの川の主たる魚なんで、そうおいそれと釣られることもあるまい。「野性の魚は人間のあげるえさは絶対に食べないから、おととい釣ったその魚を逃がしてやった。」なんて言ってた彼なんで、たとえそのナマズを釣ることができても、釣り上げることが目的なんで、多分逃がしてあげるだろうね。優しい子でしたね。そんな子だけに、こうした活動を通じてたくましさも育てて上げたいね。

（”ある補導員の話” 2002.5.1(wed) は「小さな人間たちの詩」に移しました。ご了承ください。）

“行ってきました、沖縄・座間味村 大自然体験合宿。その2” 2002.4.19(fri)

今回の事業が4月11日の静岡新聞朝刊と4月20日付けの静岡リビングに掲載されました。ありがとうございます。静岡リビングは私の写真入りで、少々恐縮しております。その両社の取材の時にもお話ししたんですが、こうした事業は、ご参加頂きます皆様一人一人、あるいは、我々スタッフ一人一人、それぞれ何らかの課題を持って行っております。勿論、今回の沖縄座間味村の場合も、普段の喧噪の中での生活から暫し離れて、のんびり観光を楽しむ、あるいは、ゆったりと自然に浸りながら自分を取り戻すために参加なさった方もいらっしゃると思います（と言っても、20数名の子ども達と一緒にですので、当然に子ども達との何らかの関わりを求めている参加であることは前提なんです）。初めての一人旅に挑戦する子、シュノーケリングやカヌーに挑戦し、自信の回復を目論む子ども達、色んな人達との交流を通じて人間関係の構築を試み子ども達、あるいは、こうした活動のリーダーの研修で参加したり、勿論スタッフとしてこうした活動を行うために参加する高校生や大学生の皆さん、また、心理カウンセリング的対応を研修するために参加する方々もいらっしゃいます。その意味で、今回の事業はどうだったんでしょうか。この2週間の余、実施報告書を作成しながら、参加した方々の感想文をじっくり読ませて頂いておりますが、我々の対応不備は多々ありましたものの、特に参加下さいました高校生や大学生、一般の方々の多大なご協力のお陰で、その後にそれぞれの成果もあり、皆様には満足の入った事業ではなかったかと思っ、感謝しております。ありがとうございました。

”行ってきました、沖縄・座間味村 大自然体験合宿。その1” 2002.4.15(mon)

皆様、行って参りました、あの南国の楽園・沖縄座間味村に。小学生11名。中学生9名、高校生4名、大学生及びその予備勉強組8名、一般15名の計47名の大所帯。感激しました、感動しました、あの海の透明度と大自然の豊かさに。実によかったです。

でもね、実は初日からハラハラドキドキの旅だったんです。なにせ前夜充電したばかりの

私の携帯電話のバッテリーが、名古屋空港出発前に既になくなってしまったことが物語っていますよね。というのも、全員の航空チケットを持った私があと数分遅く名古屋空港に着いていたら、参加者全員、憧れの沖縄どころか、ただの名古屋空港見学の旅で終わってしまっていたんです。

そもそもそんな旅の始まりになったのも、航空チケット予約の段階で当初の予想を上回る申込で、沖縄行きを福岡経由組と沖縄直行組に分けざるを得なかったことに始まり（よって、福岡経由組が当初の出発予定の1時間前に出発することになったんです）、マイクロバスで途中参加者を拾っていく時、1カ所集合場所を見失ってしまったり、再三にアドバイスにも拘わらずこの私が名古屋インターから名古屋空港への道を間違えてしまったことが重なり、そんな旅の始まりになったんです。これから数日に渡り、今回の旅の思い出を語ってみたいと思います。宜しくお付き合い下さいませ。

“県立高校全員合格、ばんざ〜い！” 2002.3.13(wed)

兎に角おめでとう！みんな。

”コンピューターウイルス感染騒ぎにより、暫しHP書き換えできず” 2002.3.9(sat)

またまたお久しぶりです。皆様、お元気でしょうか？当方、この間も至って元気ではありますが、我がパソコンはこの間大変な伝染病にかかり、治療とリハビリのため、社会復帰に約10日間を要してしまいました。あ〜あ、につつきウイルス。どこのどなたか送って下さったのか全く知る由もありませんが、なんでこんな菌をところ構わずお送り下さるのでしょうか？HPやメールを楽しんでいる私達には大変に迷惑な話です。急遽ワクチンを飲ませて抗体を作ろうとすると、今度はホームページ作成ソフトが開かず。う〜ん、困った。色々調べてみましたが、どうもソフトを開くプログラムが一部壊れてしまったようで修復も出来ず、仕方なく新たなホームページ作成ソフトを購入。ようやく我がホームページの書き換えが出来ました次第です。時は公立高校入試も終わり、いよいよ国公立大学の前期試験の合格発表が始まり、我が受験生達から泣き笑いの報告電話がなり始めました。待ち望んだ春を掴んだ我が予備校生達よ、おめでとう！よく頑張ったね。まだその訪れが来ぬ予備校生達よ、まだ諦めるな！後期試験がすぐそこだ。がんばろう！

”大学受験&高校受験いよいよ本番。みんながんばれ！” 2002.2.9(sat)

決して受験競争を煽るわけではありません。ただ1つの節目に、今まで努力してきた成果を確認しようね。合格した暁にはひとりひとりたっぷり（？時間のある限り）語ってあげるからね。あっ！そう言えば、皆様、お久しぶりです！ちょっとこの頃は”日誌”じゃあなくて、”週刊誌”になっちゃってますね。時期が時期だけにご勘弁下さい。（と、いつも言ってますね。）

”平成14年度大学&専門学校入試合格第2弾、おめでとう！” 2002.2.2(sat)

おめでとう！ 横浜商科大学商学部商学科合格 H.Y.君（静岡学園高校）

いや～、ごめんね。この後のお二人もそうなんです、本当はもっと早く「おめでとう！」と言わなくちゃいけなかったんですね。つい今日まで延びてしまいました。

おめでとう！3年間の野球生活を（中学校を含めれば6年間）全うしての推薦受験。当校には7月からきてくれましたが、眠い目をこすり、よく頑張りました。スポーツで鍛え上げたその根性はこれからの大学生活や社会人生活にきっと生きてきます。頑張りましょう！

おめでとう！ 京都学園大学人間文化学部合格 S.T.君（静岡中央高校）

早々合格、おめでとう！当校には6月入学。上記のH君同様、短期決戦の勝利。大したものですね。自分の道を見付け、受験を考えての転校もさることながら、その意を達成するもの見事でした。

おめでとう！清水市立看護専門学校合格 S.Y.さん（静岡農業高校）

君も見事でした。2年生の時の入院を機に看護の道を決意。当校には8,9月の僅かに2ヶ月の集中勉強で、見事に難関を突破しました。おめでとう！きっと人の心の痛みが分かる看護婦になれます。頑張っってね。あっ！

そう言えば、皆様、お久しぶりです！ちょっとこの頃は”日誌”じゃあなくて、”週刊誌”になっちゃってますね。時期が時期だけにご勘弁下さい。（と、いつも言ってますね。）

”NPO静岡県教育フォーラム、コミュニティ静岡に紹介される” 2002.1.27(sun)

どうもいけませんね、このところ日誌もさぼりがちで。でも、忙しい、忙しいと言わずに頑張っって書き続けます。

お知らせするのをすっかり忘れてしまいましたが、実は当NPO法人静岡県教育フォーラムが静岡県コミュニティづくり推進協議会発行「コミュニティ静岡」の、なんと2002年1月1日号に第7ページ一面（A4）で紹介されたのであります。早速それをお読み頂いた焼津在住のお母さんから、当フォーラムの「わんぱく自然の里」の活動に小学生の息子さんを参加させたい旨のお電話を頂きました。ありがとうございます。昨年12月上旬、谷許さんとおっしゃる女性記者と協議会の五十嵐さん、ほか県職員の方が当フォーラム事務所に取材に見えられ、約1間半ほど当フォーラムの活動を中心に色んなお話をさせて頂きました。ホント、色んなお話をしちゃいましたんで、どんな記事になるんだろうと不安でしたが、その後冬合宿や冬期講習・直前講習やらですっかり忘れておまして、前述の焼津在住のお母さんからお電話頂いた時はびっくりでした。その後もお子様を私達の活動に参加させたい旨のお電話のみならず、不登校などのご相談も例月に増して増えておまして、これもこうした小冊子のお陰と感謝しております。こうして私達の活動が紹介され、ひとりでも多くの子ども達が楽しい野外活動に参加し、自然を学び、人を学び、また自分の気持ちが整理されてみんなと一緒に生活できるようになれば、私達も大変やりがいを感じます。谷許記者様、私の拙い話をあのように見事にまとめて頂き、ありがとうございます。

” NPO静岡県教育フォーラムの不登校の対応について その1” 2002. 1. 18(fri)

いつものことと言われれば、そうなのですが、新年早々新たに3人、本日更に1人、不登校の相談が入りました。学習塾の方も受験シーズン到来、先月から数えて3人の中学3年生が入塾してきました。予備校の方では、正月3日から連日の夜11時半頃までの自習室開放で、明日はいよいよ過去最高の受験者数の大学センター試験。これまでに増して忙しくなってきました。でも、そんな中、一日を終えたこの時間、夜12時過ぎ頃が、ホント私の楽しみな時間なんですね。不謹慎ながら大好きな焼酎を飲み、新聞を読み、本を読み、あれこれと思索を巡らせながら、時にホームページをいじり、日誌を書く。これが私の毎日の原動力なんですね。

さて、本日磐田市のある中学校にお伺い致しました。木立の中の中学校で、ホント素晴らしい自然環境の学校でした。そこで、校長先生と学年主任の先生なんですか、入試担当先生に、私共NPO静岡県教育フォーラムが行っております不登校生の対応について、簡単にお話しさせて頂きましたが、お二人とも私共の活動に大変なご理解を示して頂き、正直私もとても嬉しく思いました。こちらこそありがとうございました。またじっくり本ホームページを読んで頂けると分かると思いますが、私共NPO静岡教育フォーラムでは、その不登校生の相談・対応は、主として心理カウンセリング・交流分析の元、エゴグラム等の科学的なデータを取り、その分析をしながら、その解消に向けて野外活動や学習支援を行っております。ただ、それこそ20余年も間心理学に拘わってきておりますが、私共は資格を持ってこうした対応・活動を行っているわけではありません。そのことはしっかりとお含み頂きたいのですが、私共スタッフ一同、その分誰にも負けない気概を持って一生懸命行っておりますので、皆々様また宜しくお願い申し上げます。

” やよいちゃんのこと” 2002. 1. 13(sun) (「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)



12/23夜、Mさんの足の裏に落書きしたYちゃん(左)と、書かれたMさん(右)の足の裏(赤ペンで下の方に、○×を書いてあるんです。)

” 教え子同士の結婚に乾杯！” 2002. 1. 6 (sun)

筆不精と言いますか、弁解になっちゃいますが、この時期は我々のような学習塾予備校業界はとんでもない生活が続きまして、正直の所年賀状どころではありません。賀状を頂いた皆様には大変申し訳ありませんが、当方からの賀状は今年も女房に任せっぱなしでありました。そのくせ、勿論のこと、頂いた賀状を読むのは毎年大変な楽しみでありまして、今年も数百枚頂いた賀状を正月の2日間にじっくり読ませて頂きました。ありがとうございました。

その中で、「突然ですが、私達はこの1月20日に結婚することになりました。T. T. & Y. K.」なる賀状を見付けてびっくり。思わず、「よかったなあ。」と漏らしてしまいました。その「T. T.」君と「Y. K.」さんは、共に静岡オープンスクール静岡教室の卒業生でありまして、教え子達なんです。共に中学校の時から当スクールに在籍し、高校生在籍時に知り合い、共に大学・短大を卒業し、同じく当スクールに在籍しておりました「T. T.」君の弟から伝え聞くに、社会人になってもお付き合いが続いておりました。社会人生活も2年、3年と経つにつれ、そろそろかなって予想はしていたものの、実際に「結婚」の2文字を目にしますと、感激しますね。嬉しいですね。感激の余り、うまく表現できませんが、なんてたって、この二人の愛の育み方はホント、純粹なんです。だからこそ、心から祝福したいんです。おめでとう！！

” 平成14年度大学入試合格第1弾、おめでとう！” 2002. 1. 4 (fri)

おめでとう！ 法政大学法学部法学科合格 I. A. さん

昨年度のお姉ちゃんに続き、同じ大学で且つ同じ学部の、しかも同じ指定校推薦合格は見事ですね。姉妹でよく頑張りました。見事な親孝行ですね。学科は違えども、伝統大学でこれからみっちり勉強して下さい。

おめでとう！ 中京大学社会学部社会福祉学科合格 N. M. さん

高校1, 2年はバスケットで活躍したものの、肝心の3年生はけがで思う結果が残せなかったけど、推薦合格を勝ち取ったのは見事でしたね。おめでとう！自身の経験から、これからは社会福祉を勉強したいとのこと。きっと人の気持ちの分かる介護士になれますよ。頑張ってくださいね。

おめでとう！ 京都学園大学人間文化学部合格 S. T. 君

早々の大学合格、おめでとう！大学進学を目指して高校転校。自分の意志を通してのこの大学合格は見事ですね。よく頑張りました。でも、これからは本当の勉強です。お姉ちゃんのアドバイス通り、小論文はいい勉強になりますよ。入学までしっかりやっておきましょう。

” 新年明けましておめでとうございます” 2002. 1. 1 (tue)

新年明けましておめでとうございます。

少子化に高齢化、更には厳しい経済状況に、この学習塾業界も「厳冬の時代」を迎えており

ます。加えて、いよいよこの4月からは新学習指導要領が実施され、この静岡県では遂に県立高校入試制度改革にメスが入ります。こうした状況を予想し、当スクールでは数年前から様々な改革を試み、一昨年の作文指導の採用と東進衛星予備校の設置。昨年はNPOの設立により野外活動の充実化を計り、今年はいよいよ静岡オープンスクールの改革を始めるべく、計画を煮詰めております次第です。

その意味で、ホント久しぶりの2日間の休養は、私にとって大変有意義なものになりそうです。詳しくはまとめ次第、皆様にもお知らせしたいと思います。本年も宜しくお願い致します。